

グローバル教育の教育内容開発に関する一考察

－ 教授書 *Global Issues* の場合 －

A Study of the Development of the Teaching Materials for Global Education :
A Case of the Textbooks, *Global Issues*

藤 原 孝 章
(富山大学)

1. はじめに (問題意識)

人, モノやカネ, 情報が国境を越え, 身近な生活レベルでの地球的な相互依存やつながりが深まり, 地球社会の成員としての意識が形成されるとともに, 他方で, 相互依存の浸透が生み出す国家間の摩擦, 南北問題などの不公平な世界構造や普遍化・共通化を強いるグローバリゼーションへの異議申し立てなど, 対立とその解決も課題意識として共有されている。先進国の過剰消費や途上国の人口爆発などに起因する地球環境問題の深刻化も指摘されている。

グローバル教育は, このような課題と問題意識を地球的諸課題として対象化し, 世界理解と地球市民的資質の育成をめざすものであり, 社会系教科にとって, 特にその公民的内容と市民的資質育成に関して, 有効な視座になりうるものである。

また, 今回の学習指導要領の改訂にともない, 学習指導要領の大綱性や最低基準性が明らかになり, 学校や地域の実情をふまえた特色ある社会科カリキュラムの創造がより可能になった。

このような事情から, 社会系教科目, 特にその公民的内容の学習をグローバル学習 Global Studies ととらえ, グローバルな社会認識と市民的資質の育成をめざすスタンダードなカリキュラムを探ることは意義あることと考える。アメリカ合衆国では, すでにこのような研究関心から, W. M. Kniep のグローバル教育のカリキュラム開発論 (*Next Steps*, 1987)¹ にもとづいた小・中・高校のほぼ一貫した教授書 *Global Issues* が開発されている。

本稿では, この初等, 中等段階の3つの教授書 *Global Issues* の教材開発事例を分析し, グローバル教育の教育内容開発の論理を明らかにしていこうと思う²。

教授書は, 初等段階として *Global Issues in the Elementary Classroom* (rev. ed.), 1993 Massachusetts Global Education Project and Social Science Education Consortium, 1993 (以下, *Global Issues* 小学校版と略記)³, 中等(中学校)段階として *Global Issues in the Middle School Grades 5-8* (Third Edition), 1994 Social Science Education Consortium, Inc. (以下, *Global Issues* 中学校版と略記)⁴, 中等(高校)段階として, Kenneth A. Switzer, Paul T. Mulloy, and Karen Smith; *Global Issues Activities and resources for the High School Teacher* (Second Edition), Social Science Education Consortium, Inc. and Center for Teaching International Relations, 1987 (以下, *Global Issues* 高校版と略記)⁵ の3冊を対象にした。なお, 本研究課題については, 小学校版の教授書を分析した田鎬潤 (Chon Ho Youn, 1997, 1999)⁶ の先行研究があるが, 本稿は小・中・高校の一貫性を視野に入れて論じている。

2. 教授書におけるスコープの原理

教授書 *Global Issues* の全体構成を表1に示した。①「地球的意識概念」が, 各年齢段階のはじめに導入として学習されること, ②小学校・中学校は, 共通の学習領域の編成になっていること, ③高校では, 主として地球的な諸課題の

学習に重点が置かれていることなどの特徴を取り出すことができる。

学習領域を構成するスコープの原理は、Kniep のカリキュラム開発論に基づき、現代に生きる私たちの経験を「総合的・全連関的な経験領域」として内容化し、そこから使命と目標を設定し、「人間の価値と文化」「グローバル・システム」「地球的諸課題」「グローバル・ヒストリー」という4つの本質的要素を学習内容領域としている⁷。各年齢段階で「地球的意識概念」を導入にしているのは、グローバル教育では、地球の現状や地球と人間との全連関的な関係性を重視しているからである⁸。高校で地球的諸課題の学習に重点がおかれているのは、より専門的な内容領域としての地球的諸課題の領域が選択されているからである。

3. 教授書におけるシーケンスの原理

教授書 *Global Issues* におけるシーケンスの原理を表2～4に示した。K-12という小・中・高校の一貫したカリキュラム編成として、①グローバル学習の基本概念の基礎および基本的技能を身に付ける初等（小学校）段階と、②それらの理解の深まりをはかる中等前期（中学校）、③専門化、高度化をはかる中等後期（高校）というように大きく3つの段階に分けられている（優先順位欄）⁹。

初等学年において強調される基本概念とは、①文化、②相互依存、③希少性、④対立、⑤変化という、グローバル学習の5つの基本概念をさしている。具体的には、小学校前半（G1-3）に概念の獲得学習、小学校後半（G4-6）に概念獲得学習のくりかえしと州・アメリカ合衆国・非アメリカ世界の学習が同時に考えられている。基本概念の獲得は、授業事例として示された「現象的テーマ」の学習を通じてめざされる。

中等前期（中学）で強調される「理解の深まり」は、小学校で学習した「システム、人間の価値と文化、永続的な地球的課題、歴史的なものの見方（グローバルな歴史）」といった学習領域（グローバル教育の本質的構成要素）をスバ

イラルに学ぶことによって保証されている。

中等後期（高校）で強調される専門化、高度化は、科学的知識や地球的諸課題を通した問題解決的な理解をさし、社会参加の能力を高めていこうとするものである。具体的には、行為者、構成要素、事件などの「現象的テーマ」の学習をおこない、それを通して、世界史や現代世界における合衆国やアメリカ市民の役割など地球的課題解決や社会参加の技能や態度を育成しようとしている。

「概念的テーマ」や「現象的テーマ」という語彙は Kniep のテーマ学習の考え方にそったものである。Kniep は、学問の構造的要素にてらして、①探究を行ない、現実の構造や見方を表わすための「概念」（5つの基本概念）、②概念が行為者や構成要素、事件といった社会事象となつてあらわれる領域としての「現象」、③解決のための知識や説明が提供される「永続的な問題」（永続的な地球的諸課題）という3つのテーマ・モデルを提唱している¹⁰。

4. 教授書 *Global Issues* の教材開発

4.1. 教材開発の事例分析の枠組み

表1に提示したように、*Global Issues* 小学校版は5領域27事例、*Global Issues* 中学校版も同様に5領域27事例、*Global Issues* 高校版は7領域13事例の教材が開発されている。これらすべての事例分析は紙幅上不可能なので、いくつかの授業事例を分析することで、教材開発の論理を探ってみたい。取り上げる事例は次の6つである。

- ①小学校低学年：事例1「人々のパズル」
- ②小学校中学年：事例11「つながる世界」
- ③小学校高学年：事例27「アメリカの独立とフランスの革命」
- ④中学校：事例11「彼らは世界全体を手にした」
- ⑤中学校：事例18「世紀の転換期における民主主義」
- ⑥高校：事例13「国内および外国における人権」

表1 Global Issues 小学校版（K-6）・中学校版（G5-8）・高校版（G9-12）の全体構成（筆者作成）

学習領域	（該当学年）／K-6・授業事例	G5-8・授業事例	G9-12・授業事例	学習領域
I 地球的意識 の概念の導 入	K-3 1. 人々のパズル	1. 地球的なつながり	1. 縮小する世界 2. 国々の比較	I 地球的意識 の概念の導 入
	G4-6 2. 地球の家（貿易）	2. 地球の子ども		
	G5-6 3. 私たちは何について知 ているか、何を知りたい のか	3. 私たちは何について知 っているか、何を知りたい のか		
II 人間的な価 値の学習 a. 普遍性－ 人間である ことのと標 準性 b. 多様な人 間の価値－ 文化的相違	K-3 4. おもちゃとおとぎ話	4. 「アメリカの家族 の価値」は何か	/	/
	G3-6 5. ことわざの知恵	5. さまざまな祝祭日		
	G5-6 6. 小説の世界：文学にお ける地球的な考察	6. 宗教と価値		
	K-6 7. 遊びはどこでも同じ	7. 生命の木々		
	G4-6 8. より早く、より遠く、 より高く：オリンピッ クと価値	8. 世界の音楽		
	G5-6 9. 2つの文化における教 育：日常生活	9. 文化の輪をつくる		
III グローバル システムの 学習 a. 経済 b. 政治 c. 科学技術 d. 生態学的	G3-6 10. ねずみ取り、懐中電灯、 その他のシステム	10. システムとは何か	3. アメリカの世界貿易 4. 貿易の自由	II 世界貿易と 経済的相互 依存
	G4-6 11. つながる世界	11. 彼らは世界全体を 手にした		
	G4-6 12. こどもの権利会議	12. 先住民族の権利		
	G4-6 13. より近くなる世界の旅	13. 通信ネットワーク		
	G5-6 14. 地球環境の共有	14. 地球環境の共有		
	G4-6 15. 南極探検：国際協力の 事例	15. 南極探検：国際協 力の事例		
IV 地球的な諸 課題の学習 a. 平和と安 全 b. 開発 c. 環境 d. 人権	G3-6 16. 地球的な課題の確認	16. 地球的で地域的な 課題：調査	5. 軍備のコスト 6. 核戦争、その可能性	III 地球的な対 立と軍拡競 争
	G3-6 17. 人口、多いか少ないか	17. 生物の多様性		
	G5-6 18. 子どもの健康の保護	18. 世紀の転換期にお ける民主主義	7. 近代化過程の理解 8. 外国援助－援助額、 援助対象	IV 経済開発と 外国援助
	G4-6 19. 難民	19. 難民：受け入れは ととのっているか		
	G5-6 20. 農業：1つの地球的課 題	20. 貧困と人口	9. 石油による海洋汚染、 その制御 10. 環境問題の解決	V 環境と科学 技術
	G3-6 21. 野生生物種の危機：な ぜ、どこで	21. 持続可能な開発		
			13. 国内および外国にお ける人権	VII 人権
V グローバル な歴史の学 習 （a.～d. に ついては右 端欄参照）	G3-6 22. 発明の世界	22. 歴史的な関係	/	/
	G4-6 23. 移住：移動する人々	23. 言語の系統図		
	G4-6 24. 建築とグローバル歴史	24. 暮らしのなかの香 辛料		
	G2-6 25. 暮らしのなかの香辛料	25. ジャガイモの力： 1つの食べ物がい かに世界を変えたか		
	G2-6 26. 世界の料理	26. ノーベル平和賞： 20世紀の対立		
	G5-6 27. アメリカの独立とフラ ンスの革命	27. 人類のよき契機		
			V （a.文化及び社会間の接触と受容. b.文化および価値の起源と発展 c.グローバル・システムの進化 d.地球的諸問題に先行する問題	

Global Issue 小学校版，中学校版，高校版をもとに作成した。なお，右端の学習領域欄は小・中学校版の「大単元」であり，Ⅱ～ⅤはW.M.Kniep のいう本質的構成要素に相当する。左端の学習領域欄は高校版の「大単元」を示す。

表2 初等学校（小学校）におけるグローバル学習（筆者作成）

学年	優先順位	概念的テーマ	Global Issues小学校版事例（表1）
小学校前半	1年	相互依存，希少性	1 パズル，4 おもちゃ，7 あそび， 25 香辛料，26 世界の料理
	2年	変化，文化	
	3年	対立	
小学校後半	4年	州の歴史／文化・州の現代生活／相互依存	11 つながる世界，23 移住
	5年	アメリカ史 変化，文化，対立，相互依存， 希少性	27 アメリカの独立とフランス革命
	6年	A.A.L.A	9 2つの文化における教育，19 難民， 20 農薬

（表中の「優先順位」シーケンス原理としてのカリキュラムの優先順位のこと，表3，4についても同じ）

表3 中等学校（中学校）におけるグローバル学習（筆者作成）

学年	優先順位	領域テーマ	Global Issues中学校版事例（表1）
7年	システムの理解の深化	グローバルシステム	10. システム，11. 世界を手，12. 先住民族，13. 通信，14. 地球環境，15. 南極探検
8年	人間の価値と文化への理解の深まり	人間の価値（と文化）	4. アメリカの家族の価値，5. 祝祭日，6. 宗教と価値，7. 生命の木々，8. 世界の音楽，9. 文化の輪
9年	歴史的なものの見方の深まり	グローバルな歴史	22. 歴史的関係，23. 言語系統図，24. 香辛料，25. ジャガイモの力，26. ノーベル平和賞，27. 人類の契機

表4 中等後期（高校）におけるグローバル学習（筆者作成）

学年	優先順位	領域テーマ	Global Issues高校版事例（表1）
10年	歴史的なものの見方と永続的な課題へ理解の深まり	年代順のアメリカ史（地球的課題とアメリカ）	5. 軍備のコスト，6. 核戦争，7. 近代化，8. 外国援助
11年	永続的な地球的課題への理解の深まり	現代世界の主な行為者（地球的課題と主な行為者）	9. 海洋汚染，10. 環境問題，11. ガソリン価格
12年	高度化，社会参加	現代の地球的な諸問題（グローバルな課題解決）	12. 天然資源，13. 国内外の人権

これを，次の5つの枠組みにわけて分析した（表5）。(1) 小学校における5つの基本概念の探究・獲得学習の教材開発の論理を探るために①②③を比較する。(2) 小・中学校における同一概念探究・獲得学習の教材開発の論理を探るために，相互依存を例にとって②と④を比較する。(3) 小・中・高校における「永続的テーマ」である地球的諸課題学習の教材開発の論理を探るために，人権学習を例にとって③⑤⑥を比較する。

4.2. 小学校における基本概念の探究・獲得学習

①小学校低学年授業事例1「人々のパズル」（学習領域：地球的意識の概念の導入，1時間）¹¹

この授業のねらいは，食べ物，飲み水，家，

表5 教材開発事例の分析の枠組み（筆者作成）

	(1) 概念探究・獲得	(2) 相互依存概念	(3) 人権問題
小学校低学年	①事例1 人々のパズル		
小学校中学年	②事例11 つながる世界	(事例11)	
小学校高学年	③事例27 アメリカ独立とフランス革命		(事例27)
中学校		④事例11 世界全体を手	⑤事例18 世紀の転換期の民主主義
高校			⑥事例13 国内外における人権

愛，学習など，人間は多くの面で基本的には同じであることに焦点を当て，「希少性 scarcity」

概念を身に付けようとしたものである。

授業は、1) 必要なもの Needs を話し合うブレンストーミング、2) ジグソーパズルにした「料理をするアフリカの人」「学校で学ぶ南米の子ども」「アジアと北米（白人）の家族」の絵合わせをする、3) そうして、料理＝食べ物、学校＝教育、家族＝性愛、子育てといった Basic Human Needs（人間にとって基本的に必要なもの）が世界各地において普遍的であることを学ぶ、といった3つの場面から構成される。経済学（社会科公民内容）の基礎概念である希少性概念がグローバル学習の導入場面で強調されるのは、人間にとって基本的に必要なものを地球的意識としてまずおさえておきたいからである。

②小学校中学年授業事例11「つながる世界」（学習領域：グローバルシステム、1～2時間）¹²

この授業のねらいは、身近な地域や州の現代生活を現象的テーマにしながら「相互依存」概念を獲得させようとするものである。

授業は、1) 教師が外国出身のスポーツ選手の写真、スポーツ用品、音楽、流行グッズ、世界の犬の写真など児童に身近な実物を教室に持ってきて児童の経験と照らし合わせる、2) 「全部アメリカ製といえるか」という教師の発問からそれらの品物の共通性を探っていく、3) その共通性とは「世界つながり」であり、児童の生活と世界との経済的な相互依存関係を発見する、4) そのような例を児童自ら調べ、「私とつながる世界」としてポスターやコラージュを作成して発表する、5) 経済的相互依存（貿易）が及ぼすプラス・マイナスについて、討議資料を参考にペアで話し合う、6) それについてクラスで合意を形成する、という6つの場面から構成されている。

低学年だと1)～4)の場面でおわるところだろうが、後半5)、6)の授業場面を加えることで、相互依存の中の対立や葛藤まで理解を深め、中学年の教材にしている。

③小学校高学年授業事例27「アメリカの独立とフランスの革命」（学習領域：グローバルな歴史、1時間）¹³

この授業のねらいは、アメリカ史（アメリカの独立とフランスの革命）の学習を現象的テーマにしながら、変化や相互依存（因果関係）といった歴史的なものの見方と現在の人権問題の背景理解を深めようとするものである。

授業は、1) これまで授業で学んできた「世界の人々のつながり」を想起し、アメリカとフランスとが「共有した思想」（人権思想）を取り上げる、2) アメリカの独立とフランス革命に関する歴史資料を分析し、年代順に並べるなどの年表ワークをする（歴史資料や比較年表のワークシートは教授書に用意されている）、3) 2つの革命的な事件が起きた時間の流れを比較し、合衆国憲法とフランス人権宣言が相互に影響し、共通の人権思想が両国に変化をもたらしたことを、教師の発問やクラスでの話し合いをとおして（資料1）、認識していく、という3つの場面からなっている。

人権思想は、社会科やグローバル教育において人間の普遍的な価値を示すものである。現代の価値が歴史的な淵源を持っていることを教材化したもので、次の中等学校段階での人権学習の基礎になるものである。

資料 1 アメリカの独立とフランスの革命の相互影響を考えさせる発問例（抜粋して引用）

- ・どちらの革命の方が早く始まったか。どちらの憲法が早く採択されたか。アメリカ合衆国憲法人権規約とフランス人権宣言はどちらが早く採択されたか。
- ・アメリカ人の経験がフランスの事件にどのように影響を与えたか。
- ・フランス人権宣言はアメリカの人権規約の起草にどのように影響を与えたか。
- ・アメリカとフランスの間で、思想はどのように流れたか。

以上、要するに、小学校における概念の基礎を身に付ける学習活動は、多様な学習方法を採用しながら、Basic Human Needs（人間にとって基本的に必要なもの）を通して希少性を、世界のつながりや貿易を通して相互依存と対立を、革命と人権思想を通して変化と相互依存を獲得

させている。これを表6に示した。

表6 小学校における基本概念の探究・獲得学習（筆者作成）

小学校	概念	現象	学習方法・活動
低学年事例1	希少性	Basic Human Needs（食べ物、教育、家族）	ジグソーパズル（絵合わせ）
中学年事例11	相互依存と対立	世界のつながりや貿易	身近な品物（実物提示）、話し合い、合意形成
高学年事例27	変化と相互依存	革命と人権思想	資料分析、年表ワーク

4.3. 小・中学校における同一概念探究・獲得学習（相互依存概念の場合）

④中学校授業事例11「彼らは世界全体を手にした」（学習領域：グローバルシステム、1時間以上）¹⁴

この授業のねらいは、さまざまな世界商品を現象的テーマにししながら、グローバルシステムの経済的行為者の1つである多国籍企業について理解を深めるものである。

授業は、1）グループワークとして、セイコー（時計）、サムソン（テレビ）、ネスル（チョコレート）、ニンテンドー（ゲーム）、ソニー（メディア機器）、ビック（筆記用具）、リーボック（スポーツ用品）など「世界の企業」の本社のある国を推測する、2）その答えを聞いて疑問に思ったことを出し合う、3）多国籍企業の定義をし、それが現代の経済システムの主要な行為者であることを認識する、4）発展として、多国籍企業の製品を調べ、発表する、という3つないしは4つの場面から構成されている。

小学校事例11の「つながる世界」に比べて、身近なくらしのなかの商品とその供給としての貿易という社会機能理解から、社会認識を一步すすめて、経済システムの行為者について理解を深めている点が中学校の教材開発の特徴である。これを小学校事例とあわせて表7に示した。

表7 小・中学校における同一概念探究・獲得学習（相互依存概念の場合）（筆者作成）

小／中	概念	現象	学習方法・活動
小学校事例11	相互依存それ自体	世界のつながりや貿易	身近な品物（実物提示）、話し合い、合意形成
中学校事例11	相互依存の行為者	多国籍企業	グループワーク（世界商品の本社推測）、多国籍企業調べ

4.4. 小・中・高校における地球的諸課題学習（人権学習の場合）

⑤中学校授業事例18「世紀の転換期における民主主義」¹⁵（学習領域：地球的諸課題、3時間）

この授業のねらいは、ソ連崩壊直後の民主化の動きをうけて、旧ソ連圏、アジアやアフリカ諸国における民主主義社会実現の課題を探り、民主的市民とは何かについて理解を深めようとするものである。

授業は、1）民主的市民について、その性質、技能、態度、権利、責任などのサブ概念をもとに相互の関係をウェビング手法を使って探る、2）民主的市民とは何かについてクラスで話し合い、合意を形成する、3）資料をもとに南アや旧ソ連・東欧の民主化へのチャレンジや課題について話し合う（資料2）、4）アメリカ人が諸外国の民主化を支援していることを知る、5）民主的市民を育てる教育について、3分間の発表ができるようにグループワークをする、6）発表をしてクラスで評価をする、という6つの場面から構成されている。

この授業は、現代世界の各国の民主化の課題を民主的市民とは何かという観点から探らせることで、小学校（事例27）で学んだ人権概念の普遍化（世界化、現代化）について考えさせる教材開発になっている。

資料2 「民主主義はだれにとっても機能するか」（要約して引用）

世界170カ国のうち、わずか20カ国が「成熟」した民主国家で、約40は新しい民主国家である。だが、民主的政府を立てることはたやすいことではない。その理由は多くある。

全体主義体制のもとにあった人々は、その経験から政府に信頼をおいていない。民主主義における生活を誤解している人々もいる。たとえば、チェコ共和国の大衆漫画は、ビデオやテレビ、コンピュータ、電子レンジなど消費生活物資に囲まれてソファにすわっている姿を民主主義として描いている。民主主義に物質的な豊かさを期待している人々は、政府がかわった後経済状況が悪くなっていくと、失望してしまう。南アフリカでも新しい政府ができて白人並の生活になることを黒人はのぞんだ。

別の理由もある。多くの国はさまざまな集団をかかえていて、共同して問題解決にあたった歴史がない。実際、東ヨーロッパや旧ソ連では、共産主義の崩壊後、内戦が勃発した。戦闘をしている集団が、民主主義を確立し、共通の目的のためにともに行動することは難しい。

また、いくつかの国の伝統は民主主義的な行為を支持していない。たとえば、カンボジアのような国では、平和的に指導者がかわった伝統がないのだが、選挙に勝利した人々に、喜んで事務所をあけわたすような敗北者はいない。法律のルールの伝統を持たない国もある。その様な国における法律は、伝統や宗教的信条、あるいは支配者の命令にもとづいている。

⑥高校授業事例 13「国内および外国における人権」(学習領域：地球的諸課題，3～4時間)¹⁶

この授業のねらいは、国連の世界人権宣言という普遍的な価値の実現に向けて、今なお存在する人権侵害の事例や人権にたいする考え方の違いを提示して、生徒たちの行為選択や社会参加について考察を深めようとするものである。

授業は、1) 国連の世界人権宣言を提示する、2) 世界人権宣言(普遍的な人権)について、政治的・市民的権利と経済的・社会的権利の2つのカテゴリーに分類する、3) 東西ブロックの世界では人権に対して認識の相違があり、この2つのカテゴリーの重要性に違いが生まれていることを知る、4) 南ア、ソ連、イラン、韓国の「外国における人権」の状況(資料3)を知り、世界人権宣言のうちのどんな権利が侵害されているかを考え、それに対するアメリカの外交政策の是非をグループに分かれて話し合う、5) クラスでの話し合いを通して、アメリカの外交政策を評価することは1つのジレンマであることを認識し(たとえばソ連における人権侵害への反対は、米ソの軍事兵器交渉の妨げにな

るなど)、政策の決定は1つの価値を犠牲にすることであることを理解する、6) アメリカ合衆国の国内における人権状況を資料で確認し、人権侵害が行なわれていることについて知る(資料3)、7) アメリカ合衆国内の状況と対外的な人権政策の整合性についてクラスで討論する(アメリカ国内で人権が侵害されているのに他国を批判する倫理的権利はないということなど)、8) 世界人権宣言とアメリカの人権について作文を書く、という8つの場面から構成されている。

資料3 外国およびアメリカにおける人権(1980年代前半までの状況、要約して引用)

南ア：アパルトヘイト、黒人に対する白人の政治的権利、所得、教育費などの優位。アメリカの多国籍企業の南アの天然資源への多額の投資。
ソ連：移住の制限、特にユダヤ系ソ連人、政治犯の存在。アメリカとの関係では、武器交渉や経済近代化支援と人権問題の影響。

イラン：ホメイニ政権、イスラム主義、宗教弾圧。アメリカは産油国イランと貿易、レーガン政権の武器販売。

韓国：全斗煥軍事政権、光州事件、民主化弾圧。アメリカの韓国に対する軍事的、経済的援助、同盟国。

アメリカにおける人権

ウィルミントンの10人：黒人に対するえん罪事件
外国の訪問者：共産主義者の入国拒否
修正平等法の提案：女性の法の下での平等をうたう法案の承認の遅さ(1972年から10年を超える)

この授業は、世界の人権状況に対するアメリカの政策には、国内の人権侵害や各国の人権認識の相違があり、人権の普遍化は、ジレンマを伴う永続的な課題であるという本質的な社会認識を得ようとするものである。

かくして、小学校から高校までの人権問題学習が、人権思想の成立を学ぶ小学校、人権思想の普遍化への挑戦を学ぶ中学校、多様な人権とそれを保障するための民主主義社会のジレンマについて学ぶ高校と、人権問題の基礎的理解から国際関係など専門的な内容に基づいた意思決定や判断を必要とする段階へと高度化していく教材構造を持っているといえる。これを、小学校事例をあわせて示すと表8のようになる。

表8 小・中・高校における地球的諸課題学習（人権学習の場合）（筆者作成）

小／中／高	人権問題	現象	学習方法・活動
小学校事例27	人権思想の成立	革命と人権思想	史料分析，年表ワーク
中学校事例18	人権思想の普遍化	民主化に挑戦する国々	ウェビング，合意形成，発表
高校事例13	多様な人権思想，人権のジレンマ	世界の人権状況とアメリカの人権政策	資料分析，クラス討論，合意形成，作文

5. おわりに（結びと今後の課題）

以上の考察から，次のことが明らかになった。

まず1つは，初等・中等段階の教授書 *Global Issues* が，W. M. Kniep のカリキュラム開発論にもとづき，スコープとして，グローバル教育の4つの本質的構成要素に導入場面を加えた5つの学習領域によって編成されていること，シーケンスとして，初等段階が概念の探究と獲得を中心に，中等段階が領域テーマに基づく理解の深まりや専門化を中心に授業事例が配列されていることである。

次に，教材開発においては，1）小学校における概念探究・獲得学習では，グローバル学習の5つの基本概念を授業事例（現象的テーマ）を通して獲得させていること，2）同一の概念探究・獲得学習の場合では，小・中学校において理解の深まりに違いを設けていること，3）永続的テーマである地球的諸課題の学習では，K-12を通じて，テーマとする問題の基礎的理解から専門的内容の理解へと社会認識の深化をはかり，問題の解決や社会参加のための市民的資質を育成しようとしていることである。

今後は，*Global Issues* 小・中・高校版の総計67の授業事例をより具体的に分析し教材開発の論理を得るとともに学習過程論（授業論）の視点から考察を深めていきたい。

[注]

- Willard. M. Kniep (ed.) *Next Steps in Global Education : A Curriculum Development., Global Perspective in Education*

American Forum 1987, New York, 1987 (以下，本文・注とも *Next Steps* と略記)。

- カリキュラム開発の視点からの考察については，拙稿「グローバル教育のカリキュラムに関する一考察－W. M. Kniep のカリキュラム開発論と教授書 *Global Issues* の場合－」（日本グローバル教育学会）『グローバル教育』第5号（2002年）参照。
- 1993 Massachusetts Global Education Project and Social Science Education Consortium の共同研究のプロジェクトは，1983年に始まり，Kniep のカリキュラムモデルをもとに編集したと，作成者の一人 P. T. Mulloy が「謝辞」および「序文」に記している。
- 編者は，Kniep の本質的構成要素にそって内容構成をしたこと，同心円拡大のカリキュラムでは，グローバル教育の内容はいつも高校まで待たなくてはならないことを「はじめに」で記している。
- Kniep のグローバル教育の定義（“Defining a Global Education by its Content”，*Social Education*, Oct. 1986, pp.437-446）を踏まえて高校（G9-12）用の開発し，1987年に出版したと「序文」にある。
- 田鎬潤「小学校社会科におけるグローバル・イシューの授業構成－W. M. Kniep のグローバル教育カリキュラム構成理論に基づいて－」全国社会科教育学会『社会科研究』第51号，1999年，61-70頁。
- Next steps*, p.77.
- Robert G. Hanvey, *An attainable Global Perspective*, New York : Center for Global Perspectives, 1978.
(*Next steps*, pp.83-114 に収録)
- Next steps*, pp.152-157.
- Next steps*, pp.151-154.
- Global Issues* 小学校版, pp.5-9.
- Global Issues* 小学校版, pp.57-59.
- Global Issues* 小学校版, pp.163-168.
- Global Issues* 中学校版, pp.67-69.
- Global Issues* 中学校版, pp.129-131.
- Global Issues* 高校版, pp.106-118.